

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

[教員の部]

海外渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科 知能・機能創成工学専攻
高機能構造材料創成研究室
准教授 萩原幸司

7th International conference on processing and manufacturing of advanced materials
(Thermec' 2011) : 2011年 8月1日~5日 カナダ（ケベック）

本国際会議は、その名に示す通り、新材料、プロセス開発等、材料分野全般にわたる研究者を対象とし三年に一度開催されるもので、今回はカナダ・ケベック市会議場にて行われた。生体材料、鉄鋼材料、航空宇宙材料など、22のセッションが設けられた。ポスター発表も含めると1150件以上の講演がなされ、非常に盛況な国際会議であった。その中で今回私は、マグネシウム材料のセッションにて「Microstructural factors affecting the deformation behavior of Mg₁₂ZnY LPSO-phase alloys」というタイトルの15分間の招待講演を行った。プレゼンテーション後には多くの質問がなされ、またセッション終了後には、さらに多くの研究者の方と討論を行うことができ、非常に有意義な時を過ごすことができた。

マグネシウム材料は、実用化がなされている金属合金中、最軽量であることから、近年の環境・エネルギー問題を踏まえこれまで以上に関心が急速に高まっている。本国際会議においても、口頭発表だけで57件と会議セッション中4番目に大規模であり、主催国カナダをはじめ、アメリカ、ドイツ、フランス、スペイン、オーストラリア、中国、韓国等、多くの地域の研究者から発表がなされた。その中においても日本の研究者の発表は25件とかなり多く、本分野の日本の研究競争力の高さを示している。しかし近年では諸外国、特にアジア各国の追従が激しく、今後より一層の努力が必要であると改めて感じた。

最後になりますが、本学会参加にあたり大阪大学工業会に本海外交流助成金を援助していただきましたこと、深く感謝致しております。改めましてお礼申し上げます。誠に有難うございました。



Thermec' 2011 筆者講演

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航報告書

知能・機能創成工学専攻 平田研究室
助教 新口 昇

【参加会議】 18th International Conference on the Computation of Electromagnetic Field
(COMPUMAG 2011)

【開催場所】 Sydney, Australia

【渡航期間】 July 10-16, 2011

今回参加した COMPUMAG2011 は、米国電気電子学会 (IEEE) が主催する電磁界解析に関する 2 大会議の 1 つで、756 件の応募があり、そのうち 672 件がアクセプトされた。私は 2 件の論文を投稿し、2 件ともアクセプトされたが、いずれもオーラルセッションではなくポスターセッションでの発表となつた。本会議でのオーラル発表はわずか 15 件であるが、オーラル発表を経験したかったため、残念であった。

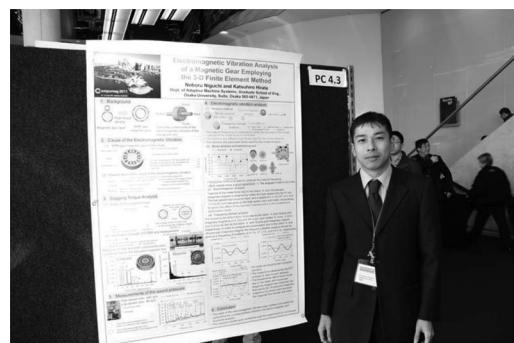
本会議は、ダーリングハーバーに面したシドニーコンベンションセンターにて 4 日間開催され、私の発表は初日と 3 日目の午前に設定されていた。2 件の発表とも磁気減速機の有限要素解析に関する内容であり、目新しい発表であったためか、わずか 1 時間のセッションの間、たくさんの研究者から質問を受け、議論を交えることができた。今まで経験したポスター発表では、日本人から日本語で質問を受けることが多かったが、今回は日本人からの質問はほとんどなく、セッションの大半を英語で議論をすることができた。また、フルペーパーを送ってほしいと名刺交換を求められることが多く、多数の研究者とつながりを持つことができ、非常に有益なポスター発表であった。

本会議が行われたシドニーは南半球にあるため、開催期間中は真冬であるが、昼間の気温は 15 度ぐらいで非常にすこしやすかった。会議の空き時間に市内を観光したが、10 年前にバックパッカーとして訪問したときとほとんど変化がなく、なつかしさを感じた。また、学生と一緒にオペラハウス、ハーバーブリッジ、シドニータワーなどを観光したが、これらの観光名所より物価の高さが印象に残る街であった。

教員としての国際会議への参加は初めてであったが、学生の時と同様、ポスター発表で他国の研究者との議論を楽しむことができた上、他の発表内容に刺激を受け、研究に対するモチベーションアップにつながった。最後に、今回の渡航費を補助してくださった大阪大学工業会に感謝の意を表します。



オペラハウスと高層ビル



ポスター発表

海外渡航報告書

応用化学専攻 明石研究室
博士後期課程 1 年 松本匡広

[参加会議] Society for Biomaterials 2011 Annual Meeting and Exposition

[開催場所] Disney's Contemporary Resort, Orlando, Florida, United States of America

[渡航期間] April 12-17, 2011

大阪大学工業会海外渡航助成の支援を受け、2011年4月12日から17日まで、アメリカ合衆国フロリダ州オーランドで開催された Society for Biomaterials 2011 Annual Meeting and Exposition (SFB Annual Meeting) に参加した。SFB Annual Meeting とは、アメリカバイオマテリアル学会の年次大会であり、産業界、学界、医学界の研究者が一同に集まり、最新の研究成果について議論する場である。今大会では約340件の口頭発表と、約580件のポスター発表が行われた。

私は、"Complete surface control of peptide nanospheres with detachable and attachable polymer brush"という題目で、環境に応じて表面特性が制御可能なナノ粒子の設計に関して、12分間の口頭発表と3分間の質疑応答を行った。私は流暢に英語を話せないため、発表では大きな声で、ゆっくりでもアクセントをきちんと意識して話し、最低限私が伝えたいことを理解してもらうことを心掛けた。質疑応答の時間が不安であったが、いくつかの質問をいただき、私の伝えたかったことが伝えられていたと感じた。

今大会に参加して私は、日本の研究のオリジナリティの高さを感じた。日本の学会では多様な研究がみられるが、アメリカでは、ほぼ同様の研究を異なる他のたくさんの研究室でも行っているように思えた。事の善悪は判らないが、日本人にはオリジナリティがないと頻繁に耳にしていた私には、目から鱗のことであった。(後日、アメリカでは同様な研究をたくさんの研究室で競争するように行うため、注目を浴びている分野の発展は日本と比べて断然速いと聞き、改めて興味深く感じた。)

学会後は、会場がディズニーワールド内ということもあり、ディズニーマジックキングダムやエプコットに足を運んだ。そこで見たファイアワークスやパレードは、迫力と臨場感に溢れるもので、日本のこぢんまりとしたものとは比較にならないものであった。ディズニーワールドの規模(山手線の1.5倍)やワールド内の従業員の明るさ、大らかさなどからも、彼らの州民性を感じることができた。

最後に、この度の国際学会参加にあたり海外交流助成金を援助して下さいました大阪大学工業会に深く感謝の意を表します。



学会会場近く



発表会場

海外渡航報告書

大阪大学 工学研究科 地球総合工学専攻
博士後期課程 2年 李 玖選

参加会議 : The Twenty-first(2011) International Offshore(Ocean) and Polar Engineering Conference (ISOPE-2011)

開催場所 : Maui, Hawaii, USA

開催期間 : 2011 年 6 月 19 日～24 日

今回、私はアメリカ合衆国ハワイで開催された ISOPE-2011 に参加した。ISOPE は、海洋、極地、工学技術分野の世界最大規模の国際学術大会だ。今年 ISOPE-2011 は、総 1358 編の論文が提出され、論文審査後 148 セッションに 735 編が発表された。51ヶ国の学界、研究界、産業界などの関係者たちが参加し、熱を帯びた学術発表と討論が行われた。

マウイ島で開催された今回の学会にするため、関西空港から 8 時間かけてオアフ島のホノルルに行き、飛行機を乗り継ぐこと 30 分、マウイ空港からはシャトルバスで 50 分移動し、会場である Hyatt Regency Maui Hotel に到着した。Hyatt Regency Maui Hotel は、とても美しい景色を背景に海岸沿いに位置していた。学術発表は 148 セッションに分かれており、10 領域で行われた。その中でも一番大きい Monarchy Ballroom にて“Estimation of Self-Weight Consolidation for Dredged Soil by Density Distribution”というタイトルで、海洋地盤工学セッションにて 20 分間発表を行った。昨年に続き 2 回目となる大会だがとても緊張した。しかし、発表と質疑応答時間が終わったにも関わらず、休憩時間にも個人的に質問を受けたりと、多くの関心の元に無事終えることができた。

発表を終え、次の日はホッとした気持ちでハワイの幻想的な空と海の景色を楽しむことができた。有名なハナウマ湾でシュノーケリングをしたり、シーフードやパンケーキなどのハワイ名物も味わった。観光時間は短かったが、ハワイの爽やかで澄んだ空と海を眺めることができただけでも最高の気分を味わうことができた。

最後に、この度の国際学会参加にあたり海外交流助成金を援助して下さった大阪大学工業会に心より感謝申し上げます。



ハワイアン航空



学会会場



名札



会場前にて



発表前



発表中



マウイ空港で見た虹



パンケーキ